

セッション(12)

5年、10年、30年後の‘自分’・‘我が町’を考えよう！

『被災地・広野町から考える』

てつがくカフェ@広野

日時: 9/17(木) 14:00~17:00

場所: 広野町中央体育館2F ミーティングルーム

セッション担当: 堀川直子(福島大学うつくしまふくしま未来支援センター)

ファシリテーター: 辻 明典(哲学者)



「てつがくカフェ」とは、フラットで安心できる関係のもとで進める哲学的な対話のことです。

東日本大震災と福島第一原発事故が起きてから、私たちを取りまく状況はめまぐるしく変化し続けています。そんななかで、さまざまな「思い」や「疑問」を胸にしまったままの方々も多いと思うのです。少しだけたちどまって、その「思い」や「疑問」についてじっくり考えることも大切なのではないのでしょうか。てつがくカフェでは、お互いの話にじっくりと耳を傾けながら、わたしたちがくともに生きていくための言葉をさぐっていきたいと思っています。

てつがくカフェのルール

さまざまなやり方がありますが、今回は次のことを重視して進めていきたいと思っています。

- ・ 発言をするときは挙手をする
- ・ 相手の話を粘り強く聴く
- ・ 自分自身の言葉で話す

「てつがく」って？

「哲学」ときくと、どんなイメージが浮かびますか？ 高校の倫理の授業？「なんだか難しそう…」といった不安？

でも、これからおこなう「てつがく」は、まったく難しくありません。

「てつがく」は、私たちがいつも当たり前だと思っていることや、日常のもやもやについて、「それってそもそもどういうことなんだろうか？」と問い直してみることから始まります。例えば、「愛とは、そもそもなんだろうか？」と問うてみてください。答えるのは難しくないですか？

私たちは、なんとなく「愛」の意味やイメージを共有していますが、「愛ってそもそも何ですか？」と聴かれると、とたんに答えことが難しくなります。

「てつがくカフェ」では、このような問い直しを、「対話」といういとなみのなかでおこないます。

対話って？

対話は、英語ではダイアローグ（dialogue）といい、おしゃべり（カンヴァセーション conversation）や、討論（ディベート debate）とは区別されます。おしゃべりは、普段の気軽なお話のことです。討論とは、2つの立場にわかれてお互いに意見をぶつけあい、勝ち負けを決めるゲームのことです。

対話とは、〈話す－聴く〉といういとなみを、丁寧に積み重ねていくことです。そして、「合意よりも、問題の所在を探ること、問いが書き換えられていくプロセスそのものをシェアすること」（鷲田清一監修 カフェフィロ編『哲学カフェのつくりかた』大阪大学出版会）でもあります。

ファシリテーターの役割

てつがくカフェにはファシリテーターがつかいます。ファシリテーターは、司会者ではありません。参加者たちの対話を促進させるために、1つ1つの発言の意味を吟味したり、言葉の意味が明確であるかどうかを参加者に尋ねたり、発言者どうしの意見を関連づけたりします。

今回の進め方

- (1) テーマから連想されることを自由に話す。
- (2) テーマについて考える上で、「これははずせない！」と思われるキーワードをあげる。
- (3) キーワードをつかって、「問い」をつくる。

*ファシリテーターによってさまざまなやり方がありますが、今回はこのように進めていく予定です。しかし、対話の流れによっては、進め方を変えることもあります。